

学校目標・経営方針	◎自己の可能性を信じ、何事にも主体的にチャレンジする生徒の育成 ◎広い視野をもち、地域社会の形成にすずんで参画できる生徒の育成		
本年度の重点目標	1. 魅力ある授業の工夫をとおして、学習意欲の向上と確かな学力の定着をはかる。	達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	2. 日々の教育活動をとおして、良好な人間関係と規範意識の醸成をはかる。		B 概ね達成できた。(6割以上)
	3. キャリア教育を推進し、各々の適性に応じた進路の実現をはかる。		C 不十分である。(4割以上)
	4. 笛吹市との包括連携等を活かして、地域課題に取り組む意識と行動力を育てる。		D 達成できなかった。(4割以下)

山梨県立笛吹高等学校校長 井上 孝悦

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価			
本年度の重点目標		年度末評価(2月4日現在)	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	学習意欲の向上と確かな学力の定着をはかり、魅力ある授業づくりに向けた授業改善の工夫	単元などをまとめた評価シートを作成し、授業を通して身につけた力を生徒に評価させ、学習方法の改善や学習意欲の向上を図る。また、それを授業改善や個に応じた指導に役立てる。	【授業アンケート】 【評価シートの活用状況】
		「やまなしスタンダード」7つの視点の実践に向け、相互授業参観等を通じ、教科を超えて学び合い、魅力ある授業づくりにチームとして取り組む。	【授業アンケート】 【相互授業参観の状況】
		個別面談や「今未来手帳」の活用を通じて、学習状況等の把握に努める。また、生徒に学習目標を持たせ学習意欲を喚起する。	【今未来手帳活用状況】 【二者懇談の機会の確保】
2	良好な人間関係と規範意識の醸成を目指した、日常的な教育活動の工夫	挨拶指導の徹底や言葉遣い・聞き方の指導を通じて、社会の中で良好な人間関係を作り上げるための基本的マナーを身につけさせる。	【登校指導の実施】 <small>【学年・学科集会など様々な場面での指導】</small>
		学校行事・部活動・地域交流など、多くの人と関わり合い良好な人間関係を形成する場面を設ける。	【部活動の活性化】 【学校生活の充実感】 【地域交流の活動状況】
		教職員間の共通理解及び保護者との連携を図り、良好な人間関係と規範意識を醸成する。	【教職員間の情報共有】 【保護者への情報発信】
3	各々の適性に応じた進路を実現するためのキャリア教育の実践	「総合的な探究の時間」「LHR」「産業社会と人間」等を活用し、外部機関等と連携しながら効果的なキャリア教育を行う。	【計画的な進路ガイダンスの実施】 【地域社会への関心度】
		インターンシップやオープンキャンパス等を有効に活用し、社会の一員としての職業観を養い、将来の職業選択の基盤を作る。	【事前・事後指導の充実】
		土曜講座、長期休業課外、小論文講座、各種検定など生徒のニーズに応じた学習機会を設け、積極的な参加を促す。	【多様な学習機会の提供】
4	具体的な学習の場面において、学んだことを積極的に生かし、他者と連携・協働しながら課題解決する力を育む	地域の外部行事を積極的に伝達するとともに、その行事等を企画の段階から自主的に取り組み、社会参画の場を工夫し、成就感や自信が持てる実践的な取り組みを行う。	【生徒会活動の充実】 【広報活動の充実】 【笛吹市との包括連携による活動】
		ウエルカム笛吹・フェスタ笛吹の行事を通じ、地域社会の一員としての所属感や連帯感をさらに強く持てるよう育成する。	【フェスタ笛吹への主体的な取り組み】 【外部への積極的なPR】
		生徒や保護者への情報提供を充実させ、進路意識や目的意識を高める。	【各種便り、HP等の充実】

学校関係者評価	
実施日(令和3年2月15日)	
評価	意見・要望等
4	・いち早くICT活用に取り組む準備が整っていたことは非常に有意義だった。Classroomの双方向性を今後多面的につかえようと思う。 ・ICTと並行して「今未来手帳」の充分な活用があることで、生徒ひとりひとりの「学ぶ意味」が自覚的になっていくように思われる。 ・授業を見て、どの生徒も楽しそうに受けていた。 ・アンケート結果を見ると生徒が意欲的に勉強している様子がうかがえる。 ・継続して活動してほしい。 ・教師側からの評価は高くないが、生徒側の評価が高いことから、感染症の状況でも、十分成果が上がっているといえると考ええる。先生方がいかに努力をしているかがよくわかる。 ・未曾有の状況下において、先生方も多用を極められている中、最善を尽くされようとしていらっしゃると思いました。 ・生徒の評価結果から、学習の目標を明確にしたり、主体的で対話的な活動を仕組もうとしていることがよくわかる。
	・担任だけでなく、日頃の状況をリアルタイムに共有できるようになった。 ・ほとんどのPTA活動が中止になったが、数少ない行事は無事に実施できた。 ・精神面に問題を抱える生徒が増加傾向にあるが、迅速に連携・対応している。 ・配慮が必要な生徒は今後も増加していくと思われるので、研修会などを行う。
	・新しい生活様式に基づき、安全・安心な環境をつくりつつ、生徒会行事や部活動を実施していく。 ・新しい生活様式を真剣に考える教育となる様、望む。 ・部活動との両立を図りながら、土曜講座等の授業外でも「学びに向かう力」を身につけさせる。 ・学校の様子がわからない、情報が伝わってこないという保護者の意見もあるので、その都度方法を考え、協力も仰ぎながら情報提供に努めていく。
	・早く対面での交流ができることが望ましいが、成果物のやり取り等で補う必要もある。 ・今後も月間行事予定などを確認して、行事後速やかに情報を発信していく。 ・新しい生活様式を取り入れながらできることに取り組み、生徒と地域との関係性を深めさせた。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。